

事故のない安全登山を目指して

藤井 諭

中国地方の最近の事故事例

山口：白馬岳～旭岳縦走で 66 歳女性がスリップ転倒、大腿部骨折→朝日小屋に搬送後へりで搬出。リーダーの適切な判断とメンバーの協力でスムーズに対処できた例

岡山：71 歳女性が北鎌尾根で両目を虫刺されで視界不良→防災へりで救助。登山者が山の怖さを知らず無理な計画をした事例

67 歳男性が山小屋で就寝中に右顔面を踏まれ目が重い炎症→ヘッドランプなしでトイレへ移動したことが誤り！赤照明だと刺激を与えずに済む

広島：深入山の県連救助隊捜索訓練、強風・深雪でビバーク（危険にさらされる）→リーダーの判断ミス、ラッセル経験者少なく隊列を組めず（*1）

大山剣ヶ峰付近：禁止されている弥山から剣ヶ峰の縦走を試み、身動きがとれなくなってへりを呼んで救出された。無責任な行動は周囲に多大な迷惑をかけることを自覚すべし！

（*1）深雪のラッセル法

斜面では、ピッケルを両手で握り雪をかき落とす→膝を使って固める→ワカンで蹴り込んで足場を作り登る、これを繰り返す。（荷物が重いと足場が崩れるので置いて空身で）

隊列を組み、トップが短時間の間全力でラッセル（5分以内）→疲れたら横にはずれ、2番手がトップに進みラッセルを交代する→横にはずれたトップはラストに廻る

MHC の安全登山で気になること

1. 定例山行で致命的な忘れ物：天気が良いから雨具は重いので置いてきてしまった→山行中に突然雨が降り、ずぶぬれになってしまった→天候によっては命取りになる！
どんな場合でも（空身でのアタックも含む）、雨具、ヘッドランプ、飲料水は必携！

2. いつどこでケガをするかわからない→山岳保険に入り登山届を出しておくと安心

労山、日山協、モンベルなどどこでも良いが、MHC では労山が後の手続きがスムーズ。

単なる転倒でも、動けなくなると救出に相当な費用がかかる。
事故事例：金峰山での 20 代女性の骨折事故→会報 7 月号「金峰山での転落事故と怪我人搬出」

労山の場合登山届を出していれば、少額でも継続して入っていると効果的。MHC は加入率が低い、希に山行する人でも本当に大丈夫なのか？（自分自身の問題）

3. へりの種類と違いを知っておく

警察へり、防災へり、ドクターへり、民間へり

ドクターへり、民間へりは高額な経費がかかる。警察へり、防災へりは無償だが、事後処理を責任を持ってしなければならない。

へりまで運んでくれた人、救助の機材を提供してくれた人等には、相当なお礼をしなければならない。→保険に入っていないと高額な費用で自己負担！